

# アコヤ養殖環境情報 2021-24号 (臨時号)

令和3年6月10日発行

<http://www.pref.mie.lg.jp/suigi/hp/16052017292.htm>

三重県水産研究所

TEL 0599-53-0016

FAX 0599-53-2225

## ◎ 概要

### 1. 「アコヤガイのへい死等の現状」に関する調査結果

・へい死率(5月1日から6月7日までの期間)は、稚貝1.0%、2年貝1.3%、3年貝4.8%でした。外套膜萎縮発症率(5月1日から6月7日までの期間)は、稚貝(未調査)、2年貝0.5%、3年貝0.5%でした。

**※稚貝の変調やへい死があれば、直ちに「水産研究所に通報」してください。**

### 2. 黒潮の接岸予測

・6月中旬以降、黒潮が大王埼へ接岸すると予測されます。英虞湾などの内湾にも黒潮系暖水が流入し、顕著な水温上昇と、珪藻類が減少する可能性があります。

・今のうちから稚貝への作業を極力控えて体力を温存するとともに、水温の低い漁場や水深に稚貝を垂下し、高水温を回避してください。

## ◎ 令和3年度第1回「アコヤガイのへい死等の現状」に関する調査結果

令和3年度のアコヤガイのへい死状況を的確に把握するため、今回はアコヤガイの飼育状況について調査を実施しました。

5月31日から6月7日にかけて調査を実施したところ、201名(全養殖業者231名)から回答(回収率87%)がありました。飼育数(6月1日時点の飼育実数)、へい死率(5月1日から6月7日までのへい死率の平均値)、外套膜萎縮発症率(5月1日から6月7日までの発症率の平均値)は以下のとおりでした。

なお、6月7日時点では稚貝、2年貝、3年貝のいずれの貝にも目立ったへい死等は認められませんでした。

### 1. 稚貝：秋・春採苗の飼育実総数 9,804,400個、平均へい死率 1.0%、外套膜萎縮は貝が小さいため未調査【秋採苗】

地区	飼育数(個)	へい死率(%)	外套膜萎縮発症率(%)
英虞湾_湾奥地区 (7地区)	1,067,000	3.1	未調査
英虞湾_湾央地区 (4地区)	224,000	0.2	未調査
英虞湾以外の地区 (6地区)	328,400	0.0	未調査

#### 【春採苗】

地区	飼育数(個)	へい死率(%)	外套膜萎縮発症率(%)
英虞湾_湾奥地区 (7地区)	4,437,000	0.8	未調査
英虞湾_湾央地区 (4地区)	2,015,500	0.4	未調査
英虞湾以外の地区 (6地区)	1,732,500	0.2	未調査

湾奥地区(7地区)：神明、立神、鷺方、船越、片田、波切、布施田

湾央地区(4地区)：間崎、和具、越賀、御座

英虞湾以外(6地区)：的矢湾、五ヶ所湾、阿曾浦、贅浦、神前浦、賀田湾

### 2. 2年貝：飼育実総数 5,392,740個、平均へい死率 1.3%、外套膜萎縮発症率 0.5%

地区	飼育数(個)	へい死率(%)	外套膜萎縮発症率(%)
英虞湾_湾奥地区 (7地区)	3,421,740	1.5	0.8
英虞湾_湾央地区 (4地区)	1,087,000	1.0	0.1
英虞湾以外の地区 (5地区)	884,000	0.8	0.0

湾奥地区(7地区)、湾央地区(4地区)：同上

英虞湾以外(5地区)：五ヶ所湾、阿曾浦、贅浦、神前浦、賀田湾

### 3. 3年貝：飼育実総数 1,694,470個、平均へい死率 4.8%、外套膜萎縮発症率 0.5%

地区	飼育数(個)	へい死率(%)	外套膜萎縮発症率(%)
英虞湾_湾奥地区 (7地区)	1,020,170	5.3	0.5
英虞湾_湾央地区 (4地区)	304,500	4.7	0.6
英虞湾以外の地区 (2地区)	369,800	3.9	0.3

湾奥地区(7地区)、湾央地区(4地区)：同上

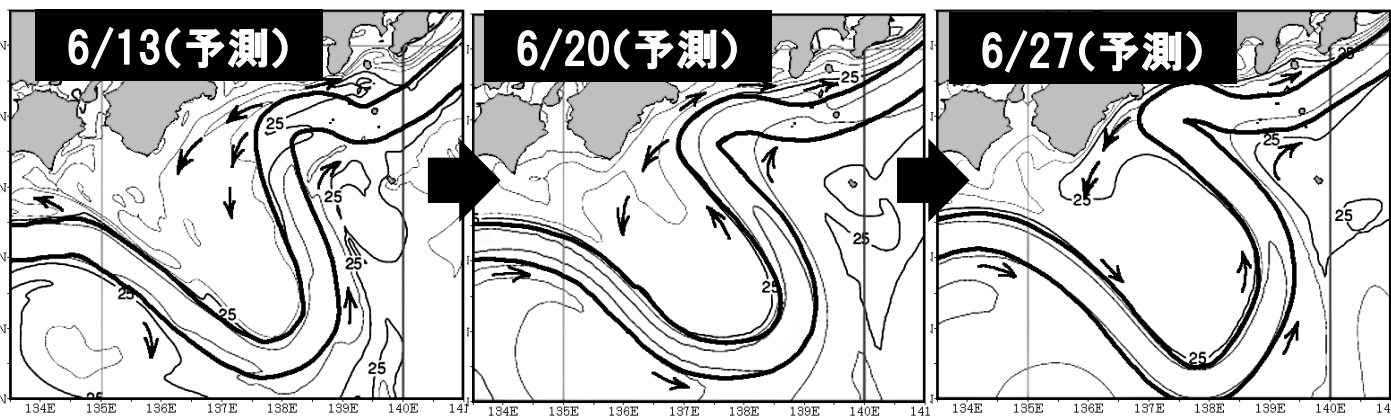
英虞湾以外(2地区)：五ヶ所湾、阿曾浦

調査へのご協力ありがとうございました。今後、へい死状況に係るアンケート調査をお願いしたいと考えております。大変お手数をおかけしますが、ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

◎ 黒潮接岸の予測 ～ 今から黒潮接岸への備えをお願いします ～

- ・ 6月中旬以降、黒潮が大王埼へ接岸すると予測されます。英虞湾など本県の真珠養殖漁場にも黒潮系暖水が流入し、急激に、海水温が上昇、珪藻類が減少する可能性があります。

(以下の予測は、気象庁の予測図から作成)



- ・ 黒潮接岸に備えて、以下についてお願いします。

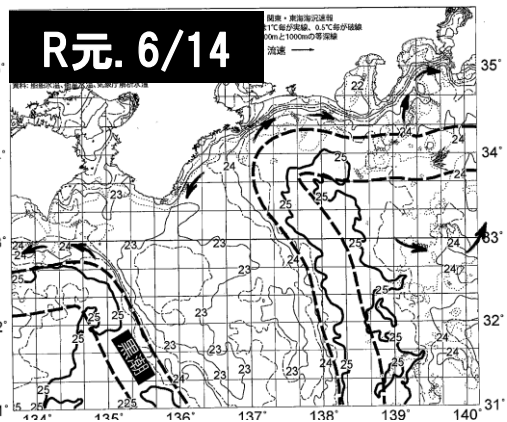
- ①貝の体力温存: 珪藻等の餌が減少する可能性があるため、体力消耗の恐れのある作業(例えば、淡水処理、塩水処理)は極力控える。
- ②高水温回避: 梅雨の中休み、あるいは梅雨明け後、急激に海水温が高くなる恐れがあるため、今のうちから水温の低い漁場や水深に稚貝を垂下する。

- ・ 具体的には、以下について特に徹底をお願いします。

- ☆ 稚貝の注意深い観察
- ☆ 淡水処理や塩水処理には十分注意
- ☆ 目合いの大きなカゴへ収容
- ☆ 水温変化の小さい2m以深に吊るす
- ☆ 稚貝の変調やへい死があれば「水産研究所に通報」

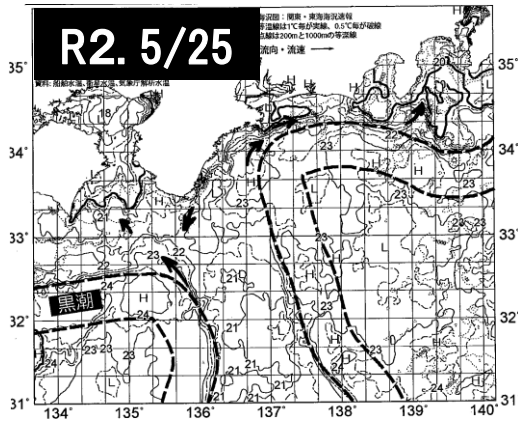
(電話 0599-53-0016)

(参考: 過去の黒潮接岸状況)



一 昨年の黒潮接岸 (R元. 6月中旬頃)

- ・ 7月上旬から2,3年貝に外套膜萎縮の症状
- ・ 7月下旬に稚貝がへい死



昨年の黒潮接岸 (R2. 5月下旬頃)

- ・ 6月上旬～中旬に稚貝がへい死